

学校法人東北文化学園大学広報誌

季報27

本法人の広報誌を国見の自然あふれる四季とともにお届けします



大雪の日、国見キャンパスは雪で純白に覆われます

※本誌掲載の写真については、新型コロナウイルス感染症対策のため撮影時のみマスクを外しています。

contents

- P1 表紙
- P2 東北文化学園フォーラム
- P3 学友会会長特別賞
- P3 災害救助犬のデモンストレーション
- P4 セブンと成長プロジェクト
- P4 準硬式野球全国大会選抜
- P5 強化部紹介（剣道部）
- P5 強化部紹介（フェンシング部）
- P6 専門学校NEWS
- P7 友愛幼稚園NEWS
- P7 久慈幼稚園NEWS
- P8 研究者紹介（現代社会学科）

東北文化学園フォーラム「コロナ禍後の新たな社会ー見えてきた課題を今後につなげるためにー」を開催しました。セブンイレブンとコラボレーションした「セブンと成長プロジェクト」や国見地域の住民に向けた「災害救助犬のデモンストレーション」など、学生の活躍も紹介しています（2頁、3頁、4頁参照）





法人 第20回「東北文化学園フォーラム」を開催

2021年12月5日、東北文化学園フォーラム「コロナ禍後の新たな社会—見えてきた課題を今後に繋げるために—」を開催しました。

これまで東北文化学園フォーラムでは、教育・研究の特色を活かし、広く市民の皆様と情報共有する目的で、

様々なテーマで特別講演、シンポジウムを行ってまいりました。

20回の節目を迎える今年度は、18回、19回に引き続き、「感染症」をテーマとしました。

現在、新型コロナワクチンの接種が進む一方、依然マスクの着用など制約

がある中、今後の新型コロナウイルス感染症の診療体制について考察するとともに、コロナ禍で見えてきた諸課題（法律、地域の発展、社会的弱者のサポート、被災地のフィールドワーク他）をその後の社会に繋げるために、専門家から講演いただきました。



新型コロナウイルス感染症予防のため、会場を縮小し、消毒・換気などの感染予防を徹底しての開催となりました。



「新型コロナウイルス感染症の診療はどうなっていくのか？」
医療福祉学部 抗感染症薬開発研究部門・渡辺 彰特任教授



「ロックダウン・諸外国の対応と日本の違い～コロナ禍で法律は何ができるか～」
経営法学部・淡路 智典准教授／法学者



「山里の復興計画—二本松市針道九区 元気の源泉 年々行事がコロナで中断。そして次の一手」
経営法学部・萩川信弘教授／経済学者



「新型コロナウイルスが変えるわたしたちの「つながり」」
現代社会学部・山尾 貴則教授／社会学者



「危機とつながり～震災から10年、被災地における復興とコロナ禍～」
現代社会学部・山崎 真帆助教／文化人類学者



総合討論「コロナ禍後の新たな社会—見えてきた課題を今後に繋げるために—」
司会 経営法学部 田邊 文彦学科長・教授



総合討論では、各講演テーマに対して、他の先生の研究分野からも意見を聞くことができ、重層的な理解が深まりました。



質疑応答では会場から、いくつも質問が飛び交い、活気ある会場となりました。本年度の東北文化学園フォーラムは盛会のうちに幕を閉じました。

学友会会長特別賞について（学生課）

2021年12月20日、学長室において「2021年度前期学友会会長特別賞」表彰式が開催されました。

学友会会長特別賞とは、課外活動等の成果が特に顕著で、学友会の名誉を著しく高めたと認められる学生が表彰される賞です。

コロナ禍の厳しい状況のなか、課外



活動で活躍した次の3名の受賞者が表彰されました。

- K-1 カレッジ 55kg 優勝
建築環境学科4年 内田 竜斗さん
 - 仙台ダンススポーツ大会優勝
臨床工学科2年 松浦 優莉華さん
 - 東京2020オリンピック・パラリンピック聖火ランナー
現代社会学科1年 白鳥 彩さん
- 表彰式では学友会会長の須藤諭学生部長から、その日頃の努力に対して敬意と本学の名誉を著しく高めた功績をたたえ表彰状並びに記念品が授与されました。

受賞者は一様に緊張した面持ちでし



たが、加賀谷学長及び須藤会長と和やかな雰囲気の中歓談し、表彰式を終りました。

今後も学業と課外活動をうまく両立しながら、ご活躍されることを教職員一同願っております。

災害救助犬のデモンストレーションイベントを開催

2021年12月10日、総合政策学部総合政策学科の岡恵介ゼミに所属する学生が、災害救助犬のデモンストレーションイベントを開催しました。

本イベントは、災害救助犬の活動やその姿を正しく理解してもらい、大学と連携協定を締結している仙台市青葉区国見町内連合会の地域防災活動計画



の中で役立ててもらうことを目的としています。

当日は、災害救助犬の認知向上を目的として国見地区町内会の住民を招き、災害救助犬の紹介と捜索活動のデモンストレーションを行うとともに、令和3年度仙台市地域防災リーダー(SBL)新規養成講習会を受講した学生が、災害発生時の災害救助犬の活用方法について提案を行いました。

〔災害救助犬とは〕…地震や台風、土砂崩れなどの災害で倒壊家屋の瓦礫や土砂に埋もれ閉じ込められた人々や、登山、山菜採集等で山間部で行方不明の人を、ハンドラー（指導手）と



共に捜索するために訓練された犬のことです。現場では、犬の優れた嗅覚が活躍します。特に、刺激臭であれば人の約1億倍を感知します。近年、東日本大震災や広島土砂災害のニュース等でも取り上げられることもありますが、まだまだ広く認知されているとは言えません。



救ボール箱を建物のガレキに見立て、災害で埋もれた救助者を探す訓練を行いました。要救助者を発見すると鳴き声で知らせます。



災害救助犬の認知活動の一環として、訓練終了後には、地域住民の方と交流を楽しむコーナーを用意しました。



学生・教員と国見町内会の方々との集合写真。大変多くの方に参加いただきました。地域の防災活動計画の一助となれば幸いです。

大学

セブンイレブンのコラボ販売促進イベントを実施（経営法学科）

経営法学科田邊ゼミは、ゼミ活動の一環として、セブンイレブン東北文化学園大学店とコラボレーションした販売促進イベント「セブンと成長プロジェクト」を実施しました。

セブンイレブンの利用者がコロナ発生以前に戻るためのセールスプロモーション（販売促進活動）として、利用者に対



する「くじ引き」をゼミ生達が企画書を作って提案し、イベント自体も実際に自分達で景品を仕入れるなどしながら行いました。

来店客は、一定額以上の商品レシートと交換でくじを引き、景品と交換します。まとめ買いや共同購入による、客単価の上昇などが狙いです。

事業は2つのフェーズで構成され、2021年12月にセールスプロモーションを実施、その成果を定量的に検証し、次の打ち手を改善しました。2022年1月には改善した2回目を行いました。

今回のプロジェクトの大きな利点は、事業者の協力により、単発の販売促進



策に留まらず、プロジェクト設計段階から、検証、改良、実施、再検証というPDCAの経営管理サイクルを学生たちが実際に体験できる点です。

参加した学生は、通常の企業インターンシップ（短期の職業体験）では得られない、実践的、継続的な学びを経験することができました。

大学

学生会活動（準硬式野球全国大会選抜）

医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法専攻2年生の北村陸さんが、第39回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会の東北地区選抜チームに選出されました。

今回、チームの他のメンバーがほとんど3年生からの選出の中、高校を卒業してからの目標であった東北地区選



抜チームの一員として活躍しました。

準硬式野球は、高校の先輩が活躍をしている事に憧れ始めるきっかけになったとのこと。

試合は惜しくも決勝進出とはなりませんでしたでしたが、全国大会では、東北地区で戦ったピッチャーより球速が速く、打者の打球も強く速いなど、レベルの高さを経験し、その中でも打者として相手ピッチャーの重い球を打ち返し、チームに貢献できたことがとても大きな自信になったとのこと。

勉強は苦手な方だとのことですが、野球の練習成果が試合結果として現れると、自身の向上心が高まり、学びへ



の姿勢にも影響し、課題に対しても向き合えるようになったとのことでした。

将来は、国家資格である理学療法士となり、野球関連の業界で、球団のトレーナー職に就くことが目標だそうです。今後でも活躍されることを期待しております。

大学

2021年度合格宣誓式を開催（臨床工学科）



臨床工学技士国家試験に向け合格宣誓式を開催しました。式典では、一般社団法人宮城県臨床工学技士会の代表からの激励の後、学生が合格の決意を宣誓しました。



大学

学外学習で白石城の踏査へ（経営法学科・現代社会学科）



特別講座「東北の歴史」の一環として、東北地方の城下町の構築状況と都市計画について検証するため、白石城及び歴史探訪ミュージアムへ訪問しました。



大学 活動報告「1年を振り返って」(剣道部 監督 菅野 良信)

大学が部活を強化するということで、4月新たな剣道部が産声をあげました。部員4人からスタートし、途中入部もあり、現在7名での活動です。

全員が揃うことが難しく状況は厳しい所ではありますが、1年目からの目標である全日本学生大会に出場することを掲げ日々練習に励んできました。



(団体：東北から3チーム、個人：東北から6人の狭き門である)

6月の個人大会はコロナのために中止となり、9月の団体戦のみとなり、万を期して出場しましたが、世の中そんなに甘くなく見事1回戦敗退。ただし、先が見えた大会でもありました。

次に控える大会は本年度最後の大会である東北学生新人大会(団体・個人1,2年生参加)。団体は1回戦優勝候補の大学を撃破し、優勝が見えたかに思いましたが、思わぬ落とし穴がありベスト8。個人では団体の悔しさをバネに医療福祉学部1年の部員が見事優勝しました。



練習時間は恵まれているとは言えませんが、各自が目標を掲げ一つ一つに集中してきた成果と思います。来年は新部員を入れ、目標としている全日本学生大会の出場を達成出来るよう丸となり、頑張りたいと思います。応援よろしくをお願いします。

大学 活動報告「インカレ出場と今後の目標」(フェンシング部 監督 齋藤 有)

2021年4月から活動をスタートした本学フェンシング部ですが、今年も新型コロナウイルスの影響で大会、合宿、練習にも影響がありました。

その中でもインカレが無事開催となり、出場できたことは部員にとっても大変貴重な経験となりました。

今年の最大の目標は、5月の関東学



生選手権3部リーグ団体戦にて優勝することです。入替戦を勝ち抜き2部リーグへの昇格を目指しております。

東京オリンピックのエペ男子団体戦で日本史上初の金メダルを獲得し、フェンシングへの注目が高まっています。

本学としても、将来のオリンピック選手輩出、世界で戦える選手の育成、そして、部員一人一人が「輝ける者」として、スポーツの素晴らしさを身体全体で表現できるよう、日々、厳しい練習をしています。

東北エリアに、本学という新たなフェンシング強化大学ができたことを



きっかけに、東北すべてのエリアから世界へ挑戦していく選手がさらに増えることを願っております。

今後とも東北文化学園大学フェンシング部の応援をよろしく願っています。

2021年度フェンシング部の活動

- 5月 関東学生リーグ戦中止(新型コロナウイルスの影響)
- 6月 本学の理学療法学専攻の阿部助教、平山助教と理学療法学専攻学生が中心となりメディカルチェックを行う
- 7月 U20日本代表合宿中止(新型コロナウイルスの影響)
- 8月 宮城県国体強化練習会中止(新型コロナウイルスの影響)
- 10月 関東学生選手権大会に出場し全日本学生選手権の出場権を獲得する
- 11月 全日本学生選手権(インカレ)へ出場
- 1月 JOCジュニアオリンピックカップ大会

専門

第 27 回みやぎ建築未来賞 2021 で未来賞大賞を受賞（インテリア科）

2021年11月4日に行われた宮城県建築士事務所協会主催「第27回みやぎ建築未来賞2021」専門学校の部にて、未来賞大賞（第1席）を受賞しました！

受賞した作品タイトルは「百間長屋」、空き家をリノベーションし、魅力あるセカンドハウスを提案しまし



た。

コロナ禍において作業時間がなかなか取れず大変苦労しましたが、チームワークの良さで作品を仕上げました。

今回の大きなテーマは、「SDG'Sと建築」という難しいテーマでした。ウッドショックなど建築材料の問題も最近では取り沙汰されていますが、宮城県の空き家バンクに登録された住宅を選びリノベーション、土間や中庭を大胆に使用し、リモートワーク可能な快適な空間を提案しました。

模型は構造が見えるように工夫、壁は宮城県産の牡蠣殻漆喰を利用し、地



場産業をも取り入れた内容となっています。また、プレゼンテーションでは模型に照明を導入し、明るい場面と暗い場면을上手に表現し発表を行いました。

今回のコンペを通してメンバーはぶつかり合いそして協力しあい、大きく成長をしました。

専門

自治会主催 TBG 写真コンテストを開催しました



2020年度に引き続き自治会主催のTBG写真コンテストを開催しました。

今年は3部門に分けて作品を募集、全体で100作品を超える応募をいただき大盛況となりました！

応募作品は、学生・教職員の投票で各部門の優秀作品が選ばれました。

応募が一番多かった風景部門の第1位は、インテリア科 小松 良伍さん「仙台の日の出」。

次に食欲そそる食べ物部門の第1位は、インテリア科 千葉 政大さん「マカロンとタルト」。

趣味部門の第1位は、社会福祉科 本田 和さん「僕が弾くよ！」となりました。

また、部門賞とは別に、全作品から上位3作品と佳作6作品が投票で選抜され、入賞者には豪華景品が用意されました。

表彰会場では、景品を選ぶ順番を決

めるじゃんけん大会も非常に盛り上がり、参加者には笑顔があふれました。

本コンテストは、日常を切り取る写真から、学生の目線や考え方が伝わりと好評をいただいております。今後も恒例行事になりそうです。みなさまのご応募をお待ちしています。



風景部門「仙台の日の出」



食べ物部門「マカロンとタルト」



趣味部門「僕が弾くよ！」

幼稚園

12月の遊びともちつき会（幼稚園型認定こども園友愛幼稚園）



12月に入り寒さが増してきました。ドッチボールやサッカー、鬼ごっこ等、園庭で飛び回っていた子ども達の遊びにも変化が見られ、テラスや室内で、編み物にコマ回し、カルタ取り等を友だちと楽しむようになってきました。

先生と一緒に、先生と友だちと一緒に、そして今は友だちと遊びを夢中で楽しんでいる姿に成長を感じます。

例年1月に開催する「もちつき会」を、お正月について子ども達に事前に伝えたいという思いから、12月14日に日程を変更し開催しました。

もち米をふかす匂いの中、もちつきが始ると「よいしょ！」という元気な声が響きわたり、子ども達は大喜びでした。



ついた餅は小さく丸めてミズキにつけ、小正月の飾りと鏡餅を作りました。お餅屋のつきたてお餅は、みたらしときな粉で美味しくいただきました。

昔ながらの行事には、楽しさや遊び心がいっぱい詰まっています。活動の楽しさと共に、行事の由来もしっかり伝えながら、子ども達が心豊かに育つよう今後も取り組んでいきます。

幼稚園

創造性豊かに、楽しい創作体験（幼保連携型認定こども園久慈幼稚園）

久慈幼稚園では創作体験を通して、豊かな感性や創造性を育む活動に取り組んでおり、今年度もクラス毎に色々な制作を行っています。

新しい年が明け、年末年始のお休



みを楽しんだ子ども達が元気に登園し、4歳児クラスでは、早速、手作り凧に挑戦しました。思い思いの模様をビニール袋に描いて素敵な凧を完成させ、凧あげをしました。

初めてあげた子どもがほとんどで、風を受けてフワッと空に舞うと、一斉に笑顔になり、「凧、凧あがれ！」と元気よく走りました。

作る喜びと遊ぶ楽しみを味わい、また、自分で作ることで、物を大切にする気持ちも学ぶことができたのではないかと思います。

0歳児クラスでも、様々な制作に取り組んでいます。色々な素材を体験し、

感触を味わいながら感性を磨き、手指を使った動きもどんどん上手になっています。

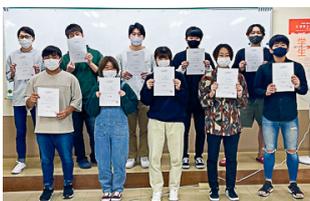
3学期は節分やひな祭り行事、冬ならではの遊びも沢山あります。

2022年も園での活動を通して、子ども達がより良い生活を送り、豊かな心を育てていくことを願います。



専門

建築積算士補の試験に全員が合格（建築土木科）



建築積算士補の試験が実施され、建築土木科2年生全員が合格しました。本校は東北の専門学校で唯一建築積算士補の資格認定校です。



専門

洋食のテーブルマナー講座を開催（医療ビジネス科）



医療秘書科・医療情報管理科2年生合同にて江陽グランドホテルで、「洋食のテーブルマナー講座」を実施しました。



私は、文化人類学的な手法・視点に基づき、災害復興の過程について研究しています。とくに、被災地・被災者なのかそうではないのか、どっちつかずの地域・人々に注目してきました。

地震や津波、台風などを指す自然災害という言葉がありますが、災害は自然には起こりません。災害が生じた社会のあり方が、様々な面で影響・関係してきます。

そのため、自然科学のみならず、文化人類学のような文系の学問が災害研究に求められるのです。

文化人類学とは、「文化」という概

念を中心に、世界各地のさまざまな社会、人間の生活や営みについて研究する学問です。なじみのない方が多いと思いますし、災害研究の領域でもマイナーな分野です。

一方で、研究手法である長期的なフィールドワーク（対象地域の人々と共に暮らし、対話する）や「当たり前」を問い直す視点により、文化人類学は独自の研究成果を生み出してきました。

こうした学問的背景を持つ私が災害研究に足を踏み入れたきっかけは、東日本大震災です。しばらくは「通い」

の大学生ボランティアでしたが、その後 NPO 法人のスタッフとして2年ほど復興支援活動に携わりました。

そのなかで目の当たりにしたさまざまな課題に学問の力で向き合おうと、研究者を志し、被災地のフィールドワークを始めた経緯があります。

現在は復興とその先の課題との接続にも注目し、コロナ禍が震災の被災地にもたらした影響を研究しています。

また、研究者／NPOスタッフとして被災地における生活困窮世帯への支援プロジェクトにも携わっています。



大規模な復興工事の様子（南三陸町志津川地区）。市街地・国道がかさ上げされ、河川堤防が築かれた。



県内有数の海水浴場がある気仙沼市小泉海岸。小山のような巨大防潮堤の建設には反対する住民もいた。



津波浸水区間を示す標識（南三陸町）。海の見えない山あい入谷地区でも津波による浸水被害を受けた。



山崎 真帆助教

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。また、記事掲載のご要望等あればご連絡ください。

■連絡先

学校法人東北文化学園大学 総務部総務課
〒981-8550 宮城県仙台市青葉区国見6丁目45-1
TEL 022-233-3330（代表） FAX 022-233-9875
メール pr@office.tbgu.ac.jp

学校法人東北文化学園大学
寄附金募集のご案内

本法人が掲げる理想の人物像「輝ける者」を社会に輩出するために、教育研究活動のための環境整備及び学生の修学支援体制の充実を行うことが必要です。より一層の教育研究活動の発展のため、皆様からのご支援を賜りたく、寄附金を募集しております。詳細は**本学 HP** をご参照ください。